

第1回オンライン高校生模擬裁判選手権実施要項（概要）

主催：札幌和男研究室（岡山理科大学教育学部中等教育学科国語教育コース国語科教育研究室）

後援：龍谷大学犯罪学研究センター、京都教育大学附属高等学校模擬裁判同窓会

1 本大会のねらい

- (1) 法的思考力や刑事（裁判員）裁判の意義の理解にとどまらず、広く人間や社会までを視野に入れた「国語的」模擬裁判を通じて、人間や社会を考える眼差しを深める。
- (2) 「国語的」模擬裁判という新しい教育手法を通じて新学習指導要領の理念でもある主体的・対話的で深い学びを実現する機会とする。

2 日時場所

- (1) 実施日 2020年8月9日（日）
- (2) 実施場所 ZOOM（各自宅）

3 出場校数およびその募集方法について

全国より最大10校（偶数校）を先着順に募集する。

4 競技方法

参加校は予め配布される文学教材や関連資料をもとに、参加校が検察側・弁護側それぞれの立場に立って立証・弁護活動を行う。シナリオ創作型の模擬裁判である。

参加校は決められた時間に従い、立証・弁護活動を行い、審査員がそれらの内容を評価して、その総合点で勝敗を決める。参加校は検察側・弁護側両方の立場で模擬裁判を行うことになる（午前中の試合で検察側を担当したチームは、午後では弁護側を担当する）。総合点の高い順から優勝校・準優勝校を決める。

5 採点基準

読解力、人間や社会への洞察力、論理性、表現力等の視点から採点する。

6 各チーム人員

1試合に必要な生徒数は、検察側・弁護側いずれの立場でも最低3名である（被告人役、証人役は生徒が行う）。当日参加する選手の人数は検察側・弁護側それぞれ7名以内計14名までとする。

7 費用

参加費は無料。

8 準備活動について

参加校確定後、教材及び具体的なルールや実施方法を配信し、争点についての立証・弁護方針を定め、証人尋問の準備をする。模擬裁判初心者でも、模擬裁判を行うにあたり必要な学ぶ機会を設ける。6月下旬より大会前まで週末を中心に必要な授業をZOOMで配信する。できる限り参加することを求めるが強制はしない。参加できなかった高校には録画動画を送付するなど補填できるようにする。また初めて模擬裁判に参加するにあたって準備するためのサポート体制を敷く。

参加校は8月2日（日）までに出場選手名（検察側・弁護側チームメンバー名および役割）を主催者まで連絡する。

9 参加条件

次の3つの条件を満たすこと。

- (1) 学校長の許可を得ること。
- (2) 趣旨に賛同できること。
- (3) ZOOM利用にあたり保護者の同意を得ていること。

10 当日のスケジュール予定

- 9時半 各自宅でスタンバイ
- 9時40分 開会式、出場校紹介、選手宣誓
- 10時 対戦校発表及び立場（検察側・弁護側）
- 10時半～12時20分 第1試合
- 13時20分～15時10分 第2試合
- 15時40分 講評
- 16時10分 成績発表、表彰式
- 16時半 終了、振り返り交流

11 その他

免責事項について、準備授業や当日の試合のレコーディングを行うが、そのレコーディングの使用については研究および教育活動以外には使用しない（肖像権について差支えある場合は事前に連絡のこと。可能な限りの対応を考える）。

教員に引率の義務は発生しない。

12 問い合わせ

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

札埜研究室（岡山理科大学教育学部中等教育学科国語教育コース）

fudano@ped.ous.ac.jp tel 086(256)9843

実施にあたっての Q&A

Q：6月下旬より大会前まで週末を中心に模擬裁判を行うのに必要な授業を ZOOM で配信するということが、具体的にはどのような内容ですか。

A：今回の趣旨は「公民科」で行うような単なる「模擬裁判」ではなくて、「国語的」模擬裁判となっています。もちろん、法律的な学習や思考についての授業も配信しますが、それだけにとどまらず、法の主体である「人間」や、「社会」を広く深く考える授業も配信します。たとえば裁判官、検察官、弁護士の法曹界のかたの授業だけでなく、冤罪被害者、演技表現指導の専門家、研究者のかたの授業など広く人間や社会を考える授業を配信します。法律的な面や論理的思考に重点を置いた模擬裁判とは違うところです。

Q：締め切りはいつでしょうか。

A：最大 10 校になった時点を考えますが、授業配信の時期もありますので、10 校を待たずにある程度の偶数校に達した時期に締め切ることを想定しています。6 月下旬になると思われる。いずれにせよ参加を考えられる場合は早めの応募をお願い致します。

Q：配信される日時はいつでしょうか。この授業に都合で参加できない場合はどうなりますか。

A：高校生の皆さんが視聴しやすい土日祝を中心に考えています。自宅で ZOOM を視聴できる環境が必要です。参加できない場合は後日録画動画を配信します。**ただ、この授業は実際に ZOOM を通じて講師と皆さんが双方向でやりとりしながら、皆さんの疑問を大事にしながらかつ講師の方々と皆さんと一緒に創り上げる授業にしたいと思っています。今回の大会準備の「肝」にあたりますので、ぜひ都合をつけて皆さんの当日の参加を期待します。**

主催者プロフィール

大阪府生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。博士（文学・大阪大学）。現場での教員生活 31 年（中学校 2 年・高校 29 年）。そのうち担任 20 回。最初の 3 年間は社会科教員であった（国語・社会・英語の中高免許状所有）。2017 年 4 月より岡山理科大学中等教育学科に准教授として赴任。日本弁護士連合会主催の模擬裁判甲子園では、京都教育大学附属高校を過去 11 回大会中 8 回優勝 3 回準優勝に導く。龍谷大学犯罪学研究センター客員研究員兼務。「模擬裁判師」と名乗り模擬裁判を広めるために全国各地へ指導に赴く。三度の飯より模擬裁判を好み、模擬裁判指導歴は数百回に及ぶ。研究分野は国語科教育・法（言語）教育・方言学。

（主な著書&論文）

- ・『関西弁事典』（2018）ひつじ書房 真田信治監修「商談と関西弁」「関西弁と国語教育」「関西弁と法廷」「『もうかりまっか』『ぼちぼちでんな』『関西弁と野球』執筆担当。
- ・「京都教育大学附属高等学校における高校生模擬裁判選手権の指導実践—京教モデル方式の提案」（2018）『法と教育』Vol. 8 pp. 59-67
- ・「模擬裁判を使った国語教育」（2018）土山希美枝編『裁判員時代の法リテラシー—法情報・法教育の理論と実践』日本評論社 pp. 81-108
- ・「刑事司法へ『ことば・教育』にまつわる要求」（2017）指宿信他編『シリーズ刑事司法を考える第 0 巻 刑事司法への問い』岩波書店 pp. 173-178
- ・『法廷はことばの教室や！傍聴センセイ裁判録』（2013）大修館書店
- ・『大阪弁「ほんまもん」講座』（2006）新潮新書